

# まんが平塚の歴史

作・丸島隆雄

## 徳川家康と中原御殿

天正十八年(一五九〇)小田原の北条氏が豊臣秀吉によって滅ぼされると



関東は徳川家康が新しい領主となり、江戸を居城とする。

徳川家康は、鷹狩りが大好きで、中原辺りでも、しばしば行った。



鷹狩りというのは、鷹を使って獲物を仕留める狩りのことであるが、ただそれだけではなく、軍事演習や民情視察という側面も持っていた。

あるとき、中原近辺で鷹狩りをしていた家康は、豊田の清雲寺で休息することにした。

寺の井戸水でたてた茶を、家康がとても気に入る

わが寺の井戸でくんだ水で入れた茶です

以後、鷹狩りのときはこの清雲寺を休息所として利用した。



これはうまい

文禄四年(一五九五)秋、この辺りが洪水となり

清雲寺も被害を受けた。

このため、休息所を安全な場所へ造ることが検討され、近くの中原の地が選ばれた。



中原御殿の普請は、代官頭 伊奈忠次の下で、小川庄左衛門(小田原北条氏旧臣、玉井帯刀)が指揮した。



慶長元年(一五九六)、中原御殿完成。

※造営年代については諸説あり。

この辺りは、雲雀が多かつたことから、雲雀野御殿とよばれた。



中原と江戸を直線的に結ぶ、中原街道も整備された。家康は、駿府と江戸の間を往復するときは好んでこの街道を利用した。



造営当時の中原は芝地で、御殿は東海道などから丸見えだった。御殿の目かくしの目的もあって回りに松を植えた。これを中原御林という。



家康は、鷹狩りや江戸・駿府間の移動に中原御殿に立ち寄ったが、ここでは、しばしば政治的に重要な事項も処理されることもあった。



小田原の大久保忠隣謀反の企てあり

忠隣は領地没収のうえ、蟄居にせよ

元和元年(一六一六)駿府城にて家康没。元和三年三月、家康の柩は金輿に載せられ久能山から日光に向かう途中の三月二十日、中原で一泊する。



### 文章の一部削除について

平成 14 年 8 月 15 日に発行いたしました「たわわ」第 43 号 2 頁「中勘助と『しづかな流』に活写された平塚」の文中【文中上から 11 行目「現存する建物は」から 14 行目の文末まで、下段写真の中央部 書齋の櫺子格子(現在)の写真と注釈部分】を削除させていただきます。これは中勘助の居宅であったとされる家特定することについて現在大きな疑義が生じていることから文責者の同意を得て文中の一部を削除することになりました。謹んでお詫び申し上げます。